

## 第5回花巻市行政評価委員会会議録

### 1 開催日時

平成24年11月16日（金） 午前9時30分～午前11時30分

### 2 開催場所

花巻市花城町1-47

まなび学園 3階 第2・第3中ホール

### 3 出席者

#### (1) 委員 13名

影山委員長、木村副部長、倉原副部長、宮澤委員、伊藤（純）委員、高橋（則）委員、伊藤（成）委員、永井委員、瀬川委員、阿部委員、久保田委員、福盛田委員、菊池委員

#### (2) 市事務局

### 4 議題

- (1) 評価結果の決定について
- (2) 行政評価の改善に関する提言について
- (3) 委員会報告書の作成について

### 5 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 【部会】部会評価の決定について
- (4) 【全体会】議事

#### ①評価結果の決定について

##### ■しごと部会

##### ◆施策：賑わいのある商店街の再生

##### \*成果指標と目標値の妥当性

- ・商店街における観光客入り込み数の観光客とは誰か明確化する必要がある。
- ・17ある商店街のどこが賑わっているか分かりにくい。
- ・訪れた人だけで達成度の把握は困難。売上などの指標が必要である。

##### \*内部評価への指摘事項

- ・その場しのぎの補助金制度になっている感がある。

##### \*事業展開のための提言等

- ・市において商店街のあるべき姿、ビジョンを示す必要がある。
- ・宮沢賢治に関するものを利用するなど花巻市独自の要件があってもよい。

##### ○事務事業：商店街活性化事業

##### \*成果指標と目標値の妥当性

- ・イベント数だけでなく、集客数も必要である。
- ・イベントへの参加者の感想などが必要である。

\*内部評価への指摘事項

- ・概ね良好である。

\*事業展開のための提言等

- ・イベント事業補助金の効果を検証した上で、事業展開すべき。
- ・財源に限りがあり、年度ごとに交付団体を絞ったり、やる気のある商店街に手厚く交付するなど工夫が必要ではないか。
- ・商店街同士の連携やネットワーク形成に行政が取り組む必要がある。
- ・通常時に人を呼ぶ策が必要である。

○事務事業：商店街魅力創出事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・商店街共同施設補修数も加えてはどうか。
- ・LED街灯設置数などを指標に加えてはどうか。

\*内部評価への指摘事項

- ・概ね良好である。

\*事業展開のための提言等

- ・事業内容はハード事業であり、施策名と内容が一致していない。
- ・ソフト事業が不足している。
- ・イベント以外で人が集まる取り組みが必要である。

◆施策：産学官連携と企業誘致による地場産業の確立

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・目標値を精査し、適切なものにする必要がある。
- ・新たな事業展開について、産学官連携によるものか、企業誘致によるものか、分けた方がよい。
- ・製造品出荷額全般ではなく、生活関連型、基礎・素材型、加工組立型などいくつかの種類に区分してはどうか。

\*内部評価への指摘事項

- ・成果指標ごとに評価するほうがわかりやすい。
- ・成果指標の一つの実績が確定しておらず、評価ができない。

\*事業展開のための提言等

- ・特になし。

○事務事業：企業活動総合支援事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・活動指標に訪問企業数を加えてはどうか。企業への周知が必要である。

- ・アドバイザー派遣により良い事例は積極的にPRしてはどうか。
- ・派遣したアドバイザーと企業ニーズがどの程度マッチングしているか明示すべきである。

◆施策：まちぐるみ観光サービスの産業化

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・二次交通の整備は重要課題である。
- ・北海道、名古屋、福岡など花巻空港を考慮したターゲットの設定が必要である。
- ・シルバー世代に旅行商品や宮沢賢治関連のメニューを増やしてはどうか。

○事務事業：まちぐるみ観光推進事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・ボランティアガイドの要請回数、花巻通検定受験者などを加えてはどうか。
- ・スマートフォン等での情報アクセス件数を指標に加えてはどうか。

\*内部評価への指摘事項

- ・成果指標以外の実績値を示す項目があれば評価しやすい。

\*事業展開のための提言等

- ・学校の総合学習におけるIT用店舗マップの作成など、若者に地元を知ってもらう取り組みが必要である。

■くらし部会

◆施策：高齢者や障害者がまちで暮らす真のノーマライゼーションへの取り組み

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・取り組みの成果を測るために、より具体的な指標設定が望ましい。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・生きがいがない高齢者が2割、助けあう風土がないと感じる人が3割もおり、これらの分析が必要である。
- ・「住み慣れた地域で安心して暮らせる」ための課題を分析し、対策を講ずる必要がある。

○事務事業：高齢者在宅生活支援事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・高齢者等住宅改善事業費補助金は、使いやすいように内容を検討してほしい。

- ・支援内容や相談窓口の周知を図る必要がある。

○事務事業：生活保護事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・国の事業であるが、市の独自の考え方があってもよい。本当に支援が必要な人に対して支援すべきである。
- ・高齢者や地域を含めた審査会などで審査する仕組みがあってもよいのではないか。
- ・社会生活の中で、生きがいを見つける支援が必要である。

○事務事業：交流・生きがいづくり支援事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・敬老会の対象年齢を引き上げるのではなく、より多くの人に参加できる工夫が必要である。
- ・交流形態は、集まりやすい小さい単位で実施することが望ましい。
- ・街なかに高齢者が集まることができる場所の支援を検討していただきたい。

◆施策：防災体制・減災対策の拡充

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・原野火災を減らす取り組みが必要である。

\*内部評価への指摘事項

- ・火災件数には原野火災を含めて評価すべきである。
- ・講習会について、受講者数よりも意識の低い人に働きかけて意識が高まったかどうかが必要ではないか。

\*事業展開のための提言等

- ・原野火災予防について、高齢者への啓発が一層必要である。

○事務事業：火災予防対策事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・火災の状況を分析し、目標値を設定する必要がある。

\*内部評価への指摘事項

- ・特になし。

\*事業展開のための提言等

- ・原野火災の予防について、高齢者への啓発が必要である。
- ・集合住宅での火災警報器の設置を促進する必要がある。

○事務事業：消防団活動支援事業

\*成果指標と目標値の妥当性

- ・概ね良好である。

\*内部評価への指摘事項

- ・事業費について、「削減余地がない」とした理由を記載するべきである。

\*事業展開のための提言等

- ・消防団員の活動しやすい環境の整備が必要である。

■人づくり部会

◆施策：職員の意識改革と行政システム改革の推進

- ・成果指標に、職員、組織、広域行政などを入れてはどうか。
- ・改善改革には、P→D→S→Pのサイクルがあるが、新しい課題が発生する場合、指標も変わっていくなど柔軟な対応が必要ではないか。
- ・どのような議論や経緯があって、施策や事務事業は発生したのかを明示又は説明するべき。
- ・改革改善された事業を毎年把握することで、よりよい改革ができると期待できる。
- ・行政評価委員会の前に、内部で評価をもっと検証する必要がある。

○事務事業：行政改革推進事業

- ・指標が把握できないために評価できないが、より一層努力してほしい。

○事務事業：行政評価システム推進事業

- ・内部の事情が分からないなか、限られた時間で評価することは難しい。
- ・目標値を提示することにより力を入れてほしい。
- ・目標値を達成できたかどうかも大切だが、それに向けてどのような努力や対応したかプロセスが見えるようにしてほしい。

○事務事業：全庁意識改革推進事業

- ・職員の意識をどう把握するのか、部外者が判断するのは困難であるし、説明者からも明確な説明はなかったが、せつかく評価するのであれば職員自身も何かプラスにつながる、モチベーションが上がる仕組みにするべきではないか。

◆施策：NPOの活動促進と支援

- ・指標項目に無理があり、また数値も把握ができていない状況での評価に無理がある。
- ・NPOの実態把握は困難であるが、例えば社会福祉協議会と連携して把握に努めてはどうか。

○事務事業：市民参画協働推進事業

- ・目標を達成しており、より高い目標値を掲げて取り組む必要があるのではないか。

◆全体として

- ・目標と成果指標が明確ではない施策・事務事業があり、評価すること自体に無理がある。目標値を掲げることは、その事業で何を大切にするかであり、そのことにより重点を置いてほしい。

- ・評価検証シートで評価することに限界がある。またヒアリングでも評価するための十分な情報が得られなかった。
- ・指標以外の実績値も分かると評価がしやすい。
- ・事業内容は毎年変わっていくと思うので、当初の目標値は残しつつ、別の指標を追加設定してはどうか。
- ・数字で評価できない事業もあると思うので、記述による評価も必要ではないか。
- ・行政評価に対する職員の意識が低いのではないか。内部でもっと行政評価に対する検証が必要である。

※部会からの発表終了。

※部会の評価結果に対する質問意見はなかったため、委員会の評価として決定した。

## ②行政評価の改善に関する提言について

### <内部評価について>

意見なし（部会での内部評価結果をもとに報告書にまとめる）。

### <行政評価委員会のあり方について>

- ・昨年は初年度だったので、行政評価とは何かよく分からないまま終わってしまったが、今年は、担当課から事業概要の説明があり、内容を理解した上で評価事業を選定できた点は良かったと思う。
- ・花巻市の10年後のビジョンが示されないとい何に対して評価して良いか分からない。例えば中心市街地をどうするかといった大きな課題は、最終的に中心市街地をどうするのか、方向性や目標を示してほしい。
- ・委員の任期が2年となっているが、もし次年度に行政評価委員会を実施する場合、委員が全員代わってしまうと一からの説明になってしまうため、半分ずつ入れ替える等の工夫が必要である。
- ・昨年の行政評価に対して、3月に「評価結果に対する市の考え方」が示されたが、内容をみると、「検討する」「努めていく」という表現が多く、単に意見を聞くだけでなく、具体的な改善につなげてほしい。
- ・マネジメントシートの内容が破綻しているという説明から入る担当課が多いので、行政評価委員会を行なうのであれば、シートを資料として成り立つ状態で実施してほしい。フォーマットが共通のマネジメントシートで評価するのは無理があり、施策・事業ごとに項目を追加・削除するべきでないか。

## ③委員会報告書の作成について

委員会報告書の作成について事務局から提案があり、原案どおり了承

## (5) 閉会

6 傍聴人数

2人

7 問い合わせ先

花巻市政策推進部企画調整課

電話番号：0198-24-2111（内線 211）